

## 「世界最高水準の原子力規制基準ってほんと？」

岡本良治（九工大名誉教授）

### § 1.はじめに一原発再稼働をめぐる情勢をどう見るか

- ・安倍首相は 2014 年 1 月 24 日の第 186 回国会の施政方針演説において「世界で最も厳しい水準の安全規制を満たさない限り、原発の再稼働はありません」
- ・田中原子力規制委員長は「規制基準を満たすかどうか審査をするが、完全に安全であるとは保証できない」「世界一の規制とはいえないが、世界最高水準の規制と思う」

・原発差し止め訴訟のふたつの対照的な判決をどう見るか

- 1) 関西電力・高浜原発 3, 4 号機の再稼働差し止めを命じた福井地裁の仮処分決定 (2015.4. 14)

→4.16 規制委員長「事実誤認ある」、「基準見直す必要ない」

←4.17 高浜仮処分決定、誤認しているのは規制委・規制庁側

<http://fukurou.txt-nifty.com/fukurou/2015/04/post-f1da.html>

- 2) 九州電力・川内原発 1, 2号機の再稼働差し止めを却下した鹿児島地裁の決定(2015.4. 22)

→地裁差し止め却下 「川内」事実認定に問題 2015 年 5 月 5 日東京新聞

#### 鹿児島地裁の認定と取材とのずれ

論点	裁判所の認定	取材	
住民の避難	30キロ圏の避難計画	5キロ圏の住民を優先する2段階避難は合理的	自己判断で避難する人もおり、非現実的
	代替の避難先の確保	指定先が使えなくなった場合でも調整システムで確保できる	システムは名簿程度のもので、調整は手作業
	入院患者らの避難手段	必要台数のバスを確保する	県とバス事業者とが交渉中。確保はまだ
	物資の備蓄・配備	県などが安定ヨウ素剤や物資を備蓄	分散して備蓄。ただ具体的な配備・輸送方法は未定
火山	巨大噴火	可能性があるとする専門家は少数	ほとんどの専門家が可能性を指摘
	九州電力の火山監視能力	専門家からは異論がなかった	原子力規制委員会の会合で専門家が九電の手法を批判

#### \* 「国が責任を取る(持つ)」の表明の空虚性

- 1) 地元自治体同意の表明の前提条件-責任回避の儀式？
- 2) フクイチでは「国」はどのような具体的責任を取ったか、とれたか？
- 3) 短時間（時・分・秒）の危機への対処が必要な過酷事故と別の主体が連携をとれる保障はどこにあるか？

\* 広がる「九電離れ」 2015.10.29 朝日新聞(西部本社版)

電力販売 17 ヶ月連続前年割れ

\*安倍政権にとっての「不都合な真実」はうやむやにしたまま、原発回帰への政策づくりが始まっているが、そのつけは将来世代が払うことになる。

## §2. 原発再稼働は許されるか

- ・ 現在も約 10 万人が避難していて、福島第一原発事故の直接的原因も解明不十分、
- ・ 汚染水問題も未解決、
- ・ 廃炉工程の遅れ、除染物質の最終貯蔵地の未選定。
- ・ 高レベル放射性廃棄物の最終処分法は原発を保有している各国で長年研究されてきたが、約 10 万年後の技術的な安全性は実証できない。
- ・ 高レベル放射性廃棄物処分場の場所も未定。過去に話題にのぼった自治体では反対運動が起こった。
- ・ 原発再稼働により核廃棄物の増加など、世代間倫理により一層強く反する。

## §3. 原子力規制世界最高水準というのは虚言

福岡核問題研究会の声明 (2014.12.4 <http://jsafukuoka.web.fc2.com/Nukes/index.html>)

### 理由 1

その出発点 (=発端事象) の設定だけは厳しい。しかし、その設定に対する評価が途端に甘く、対策の有効性については著しく楽観的になっている。こうして、「世界一」の厳しい起因事象の設定に対して、世界一楽観的な進展シナリオに沿った、世界一奇妙な評価が行われている。緊急時対応が受動的ではなく、人力依存の能動的な対応

### 理由 2

表：原子力規制委員会の主張と評価

原子力規制委員会の主張	事実、評価
世界一の耐震性及び耐震設計。 川内原発における重要免震棟の設置に 5 年間の猶予。	基準地振動の過小評価。 川内原発・玄海原発の重要免震棟の設置に 5 年間の猶予を与えたのは福島第一原発事故の教訓をまったく踏まえていない。
ベント・フィルターの設置(BWR に対して)。しかし、PWR には 5 年間猶予	川内原発・玄海原発にフィルター付きベントはない。 欧州では、福島第一原発事故以前から、BWR か PWR かの炉型も、地震リスクも問わず、ほとんどのプラントに設置。
コア・キャッチャーは既設炉にはない	チェルノブイリ原発 4 号機には設置された。
火山噴火を 3 ヶ月前に予知して核燃料を移動。	火山学者:噴火予知はほぼ不可能。 期間限定した恣意的な確率評価で火山噴火リスクの無視。

BWR=沸騰水型原子炉、PWR=加圧水型原子炉。

### 理由3

表：国際原子力機関（IAEA）の深層防護の考え方と日本の新規制基準の比較

IAEA の深層防護の考え方	日本の新規制基準	
第1層:異常運転及び故障の防止	○	
第2層:異常運転の制御及び故障の検出	○	
第3層:設計基準内の事故の制御	○	
第4層: 事故進展の防止及びシビアアクシデントの影響緩和策	事故進展の防止	△
	シビアアクシデントの影響緩和策	×
第5層:放射性物質の放出による放射線影響の緩和	×	

○要求あり、△要求はあるが極めて不十分、×要求なし。

### 理由4

\*避難計画の策定が関連地方自治体に義務づけられたことの不当性(非民主主義)と非実効性  
内閣府ホーム [http://www8.cao.go.jp/genshiryoku\\_bousai/keikaku/keikaku.html](http://www8.cao.go.jp/genshiryoku_bousai/keikaku/keikaku.html)

・地域防災計画・避難計画策定支援

原子力災害対策特別措置法(平成11年法律第156号)第28条第1項の規定により読み替えて適用する災害対策基本法(昭和36年法律第223号)第40条及び第42条の規定により、都道府県及び市町村には、防災基本計画及び原子力災害対策指針に基づく地域防災計画を作成することが求められています。

→具体的な地理・道路状況・単独で避難できない多数の人々の緊急時輸送について書類上の計画は策定されているとしても、実効性の検証は不十分

### 理由5

\*緊急時の被ばく線量及び防護装置の効果の試算について(案)20140528—その恣意性—  
<https://www.nsr.go.jp/data/000047953.pdf>

「なお、本試算はこれ以上の規模の事故が起こらないことを意味しているものではない。」

深層防護思想は各レベルの措置が独立であることがポイントのひとつ

↓

日本：前レベルにおいて、小規模の事故想定に応じた対策

鹿児島県知事 2015年8月11日 記者会見より：

「(原子力)規制委員会があれほど厳しい規制基準を作られたと。それで、「百万年原子炉が運転して、初めて1回事故が起こる確率」、そこまで精度を高めたと思うのです。そしてもし事故があったとしても、福島の際に放出した放射性物質、その百分の1のレベルになるように、1万テラベクレルが100テラベクレルですね、そこまで制度設計をした、その基準で、今の薩摩川内の原子炉において防御措置をいろいろ講じました」

## 理由 6

表：欧州加圧水型原子炉と日本の新規制基準の比較

	欧州加圧水型原子炉	日本の新規制基準
1.安全上重要な設備の多重性	独立 4 系統	△(独立 2 系統)
2.コア・キャッチャー	設置	×
3.格納容器熱除去設備	設置	×
4.頑強な原子炉格納容器	大型商用航空機の衝突に耐え、設計圧力を高めた二重構造の格納容器の設置	×
1 基当たり平均的な費用	約 5,800 億円以上	約 870 億円 (九州電力)

○要求あり、△要求はあるが極めて不十分、×要求なし。

留意すべきこととして、たとえ EPR 水準の安全対策を備えたとしても、その有効性の実証は十分に  
なされてはおらず、過酷事故による放射線災害のリスクがあることに変わりはない。

## § 4 原子力技術（核技術）の特異性

### ・原子力技術（核技術）の特異性

- 1) 過酷事故が起きた場合、その影響の空間的な、特に時間的な制御は不可能
- 2) 高レベル廃棄物処理に超長期間(10 万年)かかる
- 3) 種々の側面で核兵器製造技術と重なっている。(軍事的に機微な技術)
- 4) 重大事故(過酷事故)の場合の緊急時避難計画を周辺自治体に義務づける技術システムは他にはない。
- 5) イデオロギーに導かれた技術であり、通常の技術のように「失敗が許されない」ので、否定的な見解に対して次々に新たな理由が附加されてきた。

F. ダイソン「科学の未来」みすず書房、1997 年。Pp.36-39.

- 6) 集中立地の場合、複数原子炉の同時多発あるいは連鎖的な事故が起こり、周辺の原子炉の制御を困難にし、中小国には耐えられない程の破局的事態を招く可能性がある。  
工学技術(テクノロジー)の本質はデザイン(設計)にある。

吉川弘之「テクノロジーの行方」岩波書店 1996 年、2 章、

斉藤了文「ものづくりと複雑系」講談社、1998 年、5 章

設計時の想定を越える事故としての過酷事故(Beyond-Design Accidents, BDA)

技術者は次の一言で尊敬を得る。「後悔するくらいなら大事をとれ」。技術者は、設計の弱点を探るように訓練されている一大惨事の潜在的可能性について警告すべく。

F. ダイソン「科学の未来」みすず書房、1997 年。p.33.